

令和元年度 山城地方特別支援教育コーディネーター会議 開催報告

日時 令和元年9月20日(金)午後1時30分より

場所 京都府総合教育センター

講演

「支援を要する子どもの理解と支援、校内体制づくり」

特別支援教育士スーパーバイザー 後野 文雄 様



「特別支援教育」がスタートし、13年目を迎え、様々な課題を抱える中、特に校内体制づくりと子どものアセスメントから手立てにポイントを絞り、御講演いただきました。学校内で教職員の研修を進め、専門性を高めること、また、キーパーソンとなる特別支援教育コーディネーターとしての機能とその養成、校内委員会の充実などの話は、各学校でも課題として捉えているものであり、大変有益な内容でした。またこの会議に、管理職とコーディネーターが共に参加したことについて、良い評価をいただきました。

実践発表

京田辺市立松井ヶ丘小学校 片山 義弘 教頭

少人数による授業、特別支援教室やSCの活用、外部機関との連携や各担任が特別支援教育を意識した学級経営を進めることで、校内体制づくりの充実につなげることができました。



宇治市立広野中学校 特別支援教育コーディネーター 山崎 詠子 先生
特別支援教育コーディネーター 金田 伸子 先生

特別支援教育小委員会、校内委員会、ケース会議など細分化された組織、巡回相談の実施、関係機関や小中高との連携、生徒指導部会と教育相談部会へのコーディネーターの参加、職員向け通信などに取り組みました。



【参加者の感想より】

- 支援の必要な子どもに関する情報の共有化は、本校も頑張っており、コーディネーターの複数体制や役割分担も大切であると感じた。〈小学校コーディネーター〉
- 2校の実践発表では、支援を要する児童・生徒が多数であるにも関わらず、大変具体的で大変きめ細やかに組織的に取り組まれていることに感心した。〈中学校コーディネーター〉
- 講演を聴き、管理職の立場と役割をもう一度考えさせられた。〈小学校校長〉
- 生徒が実社会に出たときのことを考えた、生徒の将来を見据えた支援がフォーカスポイントとなる。〈中学校校長〉